



TITLE:

# 公開シンポジウム「日中教育課程 改革の動向」2007年度: 中国におけ る基礎教育カリキュラム改革の現 状 -進み・課題・チャレンジ-

AUTHOR(S):

---

CITATION:

公開シンポジウム「日中教育課程改革の動向」2007年度: 中国における基礎教育カリキュラム改革の現状 -進み・課題・チャレンジ-. 子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究をめざして 2012, 活動報告書(2007-2011年度): 175-178

ISSUE DATE:

2012-03-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179673>

RIGHT:

## 「中国における基礎教育カリキュラム改革の現状——進み・課題・チャレンジ」

高 峽 （中央教育科学研究所）

みなさんこんにちは。今ご紹介にあずかりました高峽です。

中国における基礎教育カリキュラム改革は、とても急な改革を進めています。この改革のことを、まず、中国におけるカリキュラム改革のあゆみと実績というところからお話したいと思います。中国の教育改革においては、義務教育は大変です。義務教育の案は、パイロット校でまずおこなって、その後に全国でおこなわれるようになりました。現在、一番初めにパイロットを実施し始めてから 6 年間、つまり一回りを終えまして、小学校で 100%、中学校で 97% 導入されています。

高校のカリキュラムは、これより遅くなります。高校カリキュラムの案は 2003 年にできて、2004 年から全国の 4 つの省で実験され、2005 年に 5 省に、2006 年に 10 省と少しずつ増えて、2007 年には 15 省に増えました。中国にある半数の省で改革をおこなっている状況です。その数年間、中央教育科学研究所は 4 回の調査をしました。その調査は、新しいカリキュラム改革の進み方と施策方針を調整するためのものでした。

今回のカリキュラム改革の特徴としては、次のような点があげられます。一つ目に、進みが速い、規模が大きい、基準が高い、範囲が広い。これは、以前の中国の改訂と比べて、ということです。そして二番目は、「開放的」と言うか「行進式」。これは正しい日本語ではありませんが、実行しながら案を改訂して改革してゆくという意味です。少しずつ、探求のような過程でやってゆきます。そして、このカリキュラム改革の影響が広い、反響が強い、改善が著しいという特徴もよく分かります。もちろん、改革の成果は大きいですから、論争も多くなっています。

数年間経ってよく見られるようになったのは、躍動、興奮、新鮮、情熱という様子です。一方で、実施している内に、とくに教師の間から、戸惑い、疑い、争いという状況も出てきました。やがて、それに基づいて、教師も研究者も反省をして、そして、いろんな問題を発見できるようになって来ました。今は調整の段階です。

途中いろんな問題がありましたけれども、色んな変化もありまして、一つは、政策システムの完備と強化です。これは、国のカリキュラム検定、地方と学校のカリキュラム経営、評価と試験といったことです。昔は、すべて中国政府が統一的におこなっておりました。もう一つは、教育課程・教材が、だんだん種類が多くなりました。たとえば、昔は数学・国語・理科・社会、全国でほとんど一つの出版社の物を使っていました。今は、小学校の国語は七種類、中学校の場合は十二種類、数学は小・中ともに九種類あります。一番驚いたのは、外国語の教材。教科書は二十数種類あります。そして、社会の場合は十八くらいあります。結構競争が激しく、教科書の質が高まることがめざされています。そして、地方と学校が工夫をして開発してゆくのですね。カリキュラム研究の分野も広がっています。昔よりも文献が増加し、今はどんどん出てきました。中国の国の動きと同じようなものだ

と思いますが、民主的に研究がおこなわれるようになりました。

また、授業の有効性を求めることに、研究のねらいが定められるようになりました。教え方、つまり教師－子どもの関係、子ども－子どもの関係という色々な角度からも検討されるようになりました。そして、校内研修と教師のFDを一体化することになり、もう一つは、教師の研究力が深まっているということがいえます。知識を教えるだけの一斉授業から活発な授業へ、形式主義の授業から、友好的な授業へといった変化がありました。

この、教師の研修力についての変化は、三回の調査結果からよく分かります。教師の関心が変化してきているのです。第一回目は、マクロで、外在的で、形式的なことに関心がありました。第二回目は、教科内容と教授法に移りました。そして第三回目は、理性的な反省と探求ができるようになってきました。と言っても、これだけでは分かりにくいですね。教師が書いた論文の中から例を出しましょう。

まず、形式主義に対する批判。ある先生の実践事例です。この先生は、九の加法を教えるときに、中央に紙を貼って、川の水を流して、音楽をつけて、教師が歌って踊りながら教えています。子どもたちはとても喜んで、歌いながら、踊りながら授業を受けていました。でも、終わってから一人のおじいさんが、子どもたちは川の中のアヒルだとたとえました。形式にはとても喜んだのですが、その内容は？結局はみんな、何のためにこの歌を歌っているのか分からないのです。教師として、形式を重視しなければならないか、内容を重視しなければならないか、ということです。

もうひとつ、小学二年生の算数・分数の授業です。ものを半分に分けるという授業です。教えるときに先生は、「みんな、自分の教室の中に、半分にできるものはありますか？」と聞きました。すると子どもは「テレビは半分になるよ」「先生の机も」「僕らの机も半分になるよ」と言いました。それを聞いて先生は、「よく考えましたね」と答えたんですね。その授業を参観していた先生はね、本当にそれでいいのですか？と疑問に思いました。これは、また時間があれば検討しましょう。

このような変化があるのですが、もちろん、直面している困難も、課題もあります。その課題に対して、中央教育科学研究所は取り組んでいるわけです。主な問題と困難には、次のようなものがあります。ひとつには、都市部と農村の格差が大きい。農村では困難が多いということがあります。教師、施設、経費などの問題です。中でも経費は、たとえば、北京・上海の子ども一人当たりの教育費と、重慶や少し離れているところの教育費を比べてみれば十数倍以上。大きいです。重慶というところは、そんなに貧しいところではありません。それでもこんなに格差があります。日本では考えられないことですね。また、教師に対する専門的な指導が非常に少ない。そして最後に、先ほどいいましたように、形式主義が授業において氾濫していることです。

中央政府から、このような色々な点に対して仕事をしています。第一に力を入れているのは、教員研修のことです。全国の、大規模なお金を入れて、研修をおこなっています。とくに、農村の方の教師資質を向上させるために、インターネットを取り入れています。校内研修制度の確立もおこなっています。

さらに、新しいカリキュラムに応じる評価と試験制度の確立や、高校カリキュラム改革を確実にすすめることに取り組んでいます。高校カリキュラムの開発は、とても困難です。というのも、難しい大学受験があるからです。義務教育課程標準、日本の場合は学習指導

要領になりますが、これの修正をおこなっています。

中国のこの改革で注目されている問題点は、教師のことです。まず、教師の資質、つまり、学歴が低いことに困っています。中央の統計では 50 万人、標準学歴を満たしていない人がいる。この標準学歴は、日本ほど高くない。小学校の先生は、中学校を卒業すればいい。中学校の先生は、中等教育を修了すればできる。もちろん今は、これを満たしていないくて、実際のレベルは高くないわけです。

今多くて問題になっているのは、学歴と実際の職務とがかけ離れていること。数学を学んだ人は数学を教えたい。あるいは、たとえば科学を教えている人はほとんど科学出身だけれども、もともとは科学出身でない人もいる。例として、北京市の小学校数学教師は 50% 以上の人は高校以上の数学を系統的に学ばなかった。理科教師の中に、高校で勉強した人は 8% である。これは、驚くべき数字です。

上海氏の小学校教師の中に短期大学以下の学歴を持っている人は 47.8%。35 歳以下の若い教師の間では、43.6% しかいない。このように学歴を持っていないように、能力も足りない教師は少数ではない。

また、教師の負担の問題もあります。基礎教養と専門知識が不足しているために、大量の勉強と研究が必要。ようやく身につけた知識と習慣は新しい教授理念には程遠い。そして、教師の仕事時間は結構長い。学級が大きいこともあって、仕事量が多いのです。京都府の高校の先生に尋ねました。毎日何時に学校に行きますか？と聞いたら、朝 7:25 から授業が始まりますので、7 時には行かなければならない。午後には何時に帰りますか？と聞いたら、最近夜の 7 時前です。7 時くらいに帰るときに他の教室に行ったら、まだ半分くらい残っている。

農村の教師と教育の質の問題です。全体として、農村の教師の比率が高いです。中国の場合は、全体として子どもの 85% は農村にいます。教師は、80% が農村の小中学校にいます。もともとが、農村教師の基礎が薄い。そして、代用教員も多い。今あげているのは、2005 年の数字ですけども、その中にまだ 50 万人の代用教師がいます。このように教師の免許を持っていない人は、やはり問題です。

ここからは、遼寧省の調査のことを話します。これは、中国の教育科学研究所が、教師教育の研究グループを作って、全国でするつもりで調査です。そのためにまず、遼寧省で評価をしました。小学生と中学生をあわせて、だいたい 20676 名です。この調査を見れば、だいたい中国全体のことが分かるかと思います。

一つ目は、朝、毎日何時に起きるかということです。毎日、朝 5 時半から 6 時の間に起きる子どもは、三年生で 37.9% です。八年生の子どもは 45.1% です。結構いますね。5 時半前に起きた子供は 17% です。これは、考えてみると遅いです。わたしは、仕事をする場合はいつも 6 時半に家をでます。6 時半にでるときに、うちのそばが一番人が多いです。今ちょうど会っただけじゃなくて、もう座って、みんな走って、タバコ捨てて。だからすごくそういう意味で、かわいそうですね。

寝る時間から見ると、3 年生の場合はだいたい 70% の子どもが 8 時から 9 時の間に寝ているんです。でも、中学校になったら、だいたい 9 時から 10 時の間に寝ている、あるいは 11 時の間に寝ている人が多い。この子どもたちの睡眠時間としては、だいたいの子供が 8 時間から 9 時間の間くらい寝ているんです、だいたい 60% ですね。けれども、このよ

うな、26.5%の子どもは7時間から8時間の間しか寝ていない。中学校になったら、そのことはどんどん短くなっています。

宿題の時間としては、今日午前中発表した先生の話によると、日本も平均して週6時間くらいですね。中国の場合は、このように、週でなくて毎日何時間かで示します。毎日3時間以上している子は、3年生の場合は18%。結構多いです。中学になったら、39%になります。このような調査をいたしました。これを見て、へえーと、私もびっくりしました。

一年で一冊も本を読んでいない子どももいるんです。どうしてかということ「好きじゃない」から、というわけではない。平日に、普段の放課後の生活としては、みんなよく遊ぶことがこの表から分かります。たとえば、宿題と練習については、1時間から2時間かけている子が36.8%。友達と一緒に遊ぶという子は、19.9%。このような短い時間の子どもも結構いますが、5時間以上の子どもも結構いる。宿題をする時間が長くなかってしまって、テレビだとか、ゲームの時間が短くなっています。

週末の時間も、やはり同じです。ゆっくり、明るくて、楽しくて、休んで遊んで。そのように遊ぶことが、できなくなっています。こちらの表から見れば、塾とか、学校での補習とか、家庭教師などは結構多いです。こういう子どもたちに対して、可哀相に思います。

子どもたちの学習に対する興味を聞きました。これは興味深い表です。小学3年生の場合は62%以上の子どもが、授業に興味を持っていると答えましたが、学年が上がると、子どもの興味がだんだん薄くなってきて、中二になったら、「普通」が多くなります。それはあまりよくないと思います。

心理的影響についての表です。「忙しい」ではなくて「緊張感」です。間違えました、すみません。競争が激しい、つまらない、寂しい、緊張感、面白い、面倒くさい、このような選択肢から子どもは何と答えたでしょう。ここから見れば、やはり、競争が激しくプレッシャーが大きくなっていることが分かります。

子どもの健康は、心理的にも身体的にもあてはまります。身体のこと、他の調査もあります。たとえば上海市の調査によって、だいたい一日全然スポーツあるいは運動をしない子どもは半分以上います。それから、ある市の場合は、1.5%になっています。

これは、私がとても注目していることです。中国の問題です。

中国はもともと、人口が13億くらいの国です。そしてこのため、大きなクラスは普通です。ここに書かれているのは、生徒から出た質問です。生徒は、「いつ僕の番になりますか？」と先生に聞きました。ある授業で、後ろに座っていた子がね、すごく勝手に放題で、この子は「どうしてですか」「ないんですか」と何か言いたがる。だから、「どうぞ」と言ったら、「いつ僕の番になりますか？」と質問したのです。つまり、全然、発見のチャンスがないのです。どうしてかと言うと、このクラスは80人生徒がいる。これはちょっと変ですね。全然見られない。変わらない。授業も、新しい学期が始まって何週間経っても、先生は子どもの名前が覚えられない。いつも授業中は、「はい、彼女」「彼」こういう風に指名する。これは大きな問題ですね。

新しいカリキュラムは、色んな方策が入っている。活用できれば一番いい。でもね、このような結果はなかなか出てこない。もちろん試験の改革のこともあります。高校のカリキュラムのことも、大学のこともあります。以上で、終わります。

文責：本所 恵（京都大学大学院）